

## 第419回番組審議会

1. 開催日時 平成19年3月20日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員の出席 委員総数 13名  
出席委員 10名

出席委員	委員長	藤元 隆一
	副委員長	橋田 純一
	委員	和田 利彦
	委員	高橋 三男
	委員	帷子 利明
	委員	千葉 則茂
	委員	西郷 喜代子
	委員	増川 博之
	委員	嶋村 正
	委員	上野 克幸

欠席委員	委員	梅村 俊男
	委員	佐藤 晴久
	委員	早瀬 藤二

社側出席者	中野 士朗 (代表取締役会長)
	石井 修平 (専務取締役)
	阿部 孝夫 (常務取締役)
	高橋 甫和 (取締役技術局長)
	淵沢 行則 (制作局長)
	堺 康規 (報道部専任部長)

事務局	青山 尚之 (編成局長)
	高橋なおみ (編成局編成部主任)

#### 4. 議 題

1. ニュースプラス1いわて  
「シリーズ いのち見つめて」  
2月12日（月）～16日（金）午後6時16分
2. その他ご覧になった番組についてのご意見

#### 5. 資 料

資料として以下のものを配布

- ・BPO報告
- ・月間民放
- ・視聴者からのご意見

#### 6. 議事の概要

社側説明

番組審議会の議題「ニュースプラス1いわて～シリーズいのち見つめて～」は  
2月12日（月）～16日（金）午後6時16分から放送いたしました。  
ご意見をお願い致します。

委員側意見

- ・ニュースの中の短い5回シリーズでしたが、医療の問題を取り上げたのは良い企画だったのではないかと。
- ・ニュースのコーナーだったので、時間が限られていたが、もう少し踏み込んだ説明が欲しかった。
- ・幅広いテーマにも関わらず、良くまとめていたが、5回のシリーズのうち3回が赤ちゃんに関するものだったのは、何か意図があったのか教えて欲しい。
- ・助産師の関係で、ベテラン助産師から最後は若手の助産師ということで、将来に希望が持てる展開になった。
- ・5回のシリーズなので、テーマの取り上げ方は偏らない方が良かったのではないかと。
- ・NICUは、興味深く見た方が多くて、どうして未熟児が増えている状況になって、何故それが続いているのかなど、もう少し掘り下げて欲しかった。
- ・医師不足の原因・これからどうしたらいいのかを、行政を含めた関係者の話をもう少し取り上げて貰ったら良かったのではないかと。これについて特別番組の制作をお願いしたい。
- ・250人の助産師がいる中、活動しているのは数人という背景をもう少し説明して貰いたかった。

7. 審議内容

別載のとおり

8. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、キー局及び関係局、関連部署に議事録を配布するなど、関係者に審議の内容を伝えた。

9. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合における

その公表の内容、方法及び年月日

- ・ 自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」  
(平成19年3月27日(火)午前11時50分～11時57分放送)で、審議の概要を放送。
- ・ 支社・支局に議事録を設置
- ・ 当社のインターネットのホームページで議事録を公開。

## 〈議事の内容〉

事務局 番組審議会の議題「ニュースプラス1 いわて～シリーズいのち見つめて～」は2月12日（月）～16日（金）午後6時16分から放送いたしました。ご意見をお願い致します。それでは委員長、宜しくお願いします。

委員長 それでは、「ニュースプラス1 いわて」の中で、岩手の医療について5日間連続で取り上げていたので、その件についてご意見をお願いします。

委員 医療の実態や問題点にスポットを当てていて、良いシリーズだと感じました。身近にリハビリが必要な人がいたので、リハビリの日数制限の問題は、特に興味を持って見ましたが、もう少し突っ込んだ説明をしてもらおうと視聴者はわかり易かったのではないのでしょうか。最初の助産師の話では、助産師の必要性は伝わってきましたが、岩手県内の動向や現状についてももう少し説明して欲しかった。2番目の遠野病院の話では、医師の充足率が74.9%ということでしたが、この数字が医師や患者にとっていかに厳しいかということ伝えるためには、院長のインタビューだけでは不十分だと感じました。新生児集中治療の話は、24時間体制でたいへんな戦いが繰り広げられている様子を垣間見ることが出来ました。取材自体はとても上手く出来ていると感じました。ただ、十分に育つ前に生まれてくる赤ちゃんが、年々増えて来ている実態に、源流の対応を考えていかないと、このような立派な施設をさらに増やしてもモグラたたきになるのではないかと感じました。最後の「夢は助産院開業」は、ご主人を置いてまでも東京に修行に行った理由の説明がなかったような気がしました。何を訴えたかったのか伝わらなかったもので、何かあれば教えて欲しい。

委員 「岩手の医療、地域医療が崩壊の危機に瀕している」という表現がありましたが、既に崩壊は始まっていますので「縮小、消滅」という表現のほうが適切ではないかと感じました。地方医療、地域医療、僻地医療など、若干意味の異なる表現がありますので、その使い方にもう少し配慮が必要だと思いました。少子社会、出産所の不足、未成熟の母親という社会問題を背景にして、ベテラン助産師から始まって、最後は夢見る若手助産師の話題で締められましたので、希望を感じる始まりと終わりでした。産科医との連携が図れば、助産師が活躍出来る場の復活は、大変良い状況だと思います。私は、弟の自宅出産、祖父の在宅死を経験しました。命の初めと終わり、命の間際を体感することが、人には大切なことだろうと思いますが、このことをもう一度考える時期に来ているんだろうと思いました。育児は出産からという紹介がありましたが、身体的にも精神的にも育児は妊娠からと考えられます。助産師達への期待、役目は極めて大切で大きいものだろうと

考えました。遠野病院では、医師の充足率が 74.9%にも関わらずその限界的な診療実態が紹介されました。しかし、医師の仕事量は、近年事務作業量が非常に増えており、一方では医師とか医療に過剰な期待があり、現場が混乱している現状の紹介が欠落していると感じました。患者を感じる医療に関する建前と現実は、医療従事者の側にも横たわる問題であることをアピールして欲しかった。NICUのところでは、赤ちゃんのいのちを「小さな命」という表現がありましたが、適切ではないと感じました。宮古のリハビリ医療の問題では「病院が命の砦」という表現がありましたが、「命の砦」は決して病院ではなくて、個人の意識だということをもう少し紹介して欲しかった。「命」を皆が認識していなければ、出生、臨終、医療、介護についての解決策は決めかねるのではないのでしょうか。近年の需要は「命」より、美容・滋養・ダイエットという状況で、命の考え方がずれてきているように思います。世間の意識を変えることが一番に必要なだと考えながら見ていました。

委員 地域医療の問題は、大変時宜を得た企画。どのテーマも良く取材されていて、真正面に取り組んでいる姿勢は好感が持てました。

「いのち見つめて」という5回シリーズですが、その内1回目と5回目が助産師で、4回目が新生児医療というテーマでしたが、3つが赤ちゃんに関わる問題で、もう少しテーマを切り分けて紹介しても良かったのではないのでしょうか。特に1回目と5回目の助産師は、2人を抱き合わせて取り上げなかったのは、単に素材の内容が濃かったためか、もっと主張したいことがあったのかお聞きしたいと思います。助産師にスポットを当てている点は、医師が不足しているから助産師に託するというのが本県の行く道なのか、あるいはもともとそういう土壤があるところなのか、取材を通じて分かったことがあれば教えて欲しいと思いました。遠野病院の救急のところで、院長が「治療に対する楽しみ」と話をしていましたが、醍醐味とかやりがいと言った方が良かったのではないかと。最後のところも「このまま行ったら医者がいなくなってしまう」と話していらしたが、現状がどのように厳しいのかももう少し具体例が示されないと分からない。リハビリの話は、難しい話を具体例を取り上げて印象に残りました。医大の新生児医療の話は、看護師の「あたたかさのある看護を心がけています」など出てきたが、知りたいのはそこではなく、どうしてそういう状況になって、何故それが続いているのかをもっと知りたかったと思いました。

委員 5つのテーマの中には、事前に知識があったものと、全く知らなかったものがあったので、初めて聞くテーマはもっと大枠に、知っているものはより深く、広くと深くが情報としてあればいいなと思いました。今後地域医療は、岩手だけではない問題で、日本の高齢化は、アメリカの3倍、フランスの5倍進んでいて、あと20年もしないうちに3分の1が65歳以上となる深刻な問題ですので、それ

をこの時期に取り上げたのは、県民の意識の上で、もう一步踏み込んで持ってもらうには、とても良い企画だと感じました。医師不足の遠野病院といった地域で働いているドクターとリハビリテーションやNICUの若者達が良い表情で働いている姿が対照的で、あれを見て、若者たちの将来設計に入ってくれば良いと思います。そういう意味で放送時間を遅めにして、一つのテーマをじっくり取り上げていった方が良いのではないかと思いました。まとめについてですが、250人の助産師がいて、病院と提携して出張分娩をしている方が数人という話がありましたが、そこが尻切れトンボになっていて、もう少し具体的なまとめが良かったのではないのでしょうか。県立病院は、岩手県は他県に比べて多いのですが、医大が1つという実態を考えていかないと、医師不足の問題解消にはならないのではないかと感じました。一番最後の助産師さんが、結婚後に東京に研修に行っているという話がありましたが、以前中国の既婚でお子さんもいる女性が日本に研修に来ていて「やりたいことはやるんです。それは子どものため、夫のためでもある。そのためには家族みんなで協力する。それは結婚したからこそ必要なことなんです」と言っていて驚きました。しかし岩手でもこういう女性が活躍する社会に変わっていくんだと感じました。

委員 テーマとしては、地域医療を取り上げていて非常に良かった。NICUは、臨場感あふれる取材で、緊迫感もあり、より医療の厳しさを感じられる作りでした。ただ全体を見ると、医師が不足しているのは伝わってきたが、何が原因か、どうしようとしているかを関係者の話がもう少しあっても良かったのではないか。そうしないと視聴者は不安を感じたままになってしまうので、現在どのように動いているのかを知りたかった。それから言葉でわからなかったのは「受診する側の意識が変わっていかねばならない」という話が不明瞭だった。全体としては、5つのテーマのうち3つが出産・新生児に関わっていて、バランスが良くないのではないか。出産・新生児についてを通して特集しても良かったのではないか。統一性があって、もう少し深く入れれば良かったと思います。

委員 シリーズ「いのち見つめて」は、良い企画だったと思います。是非続編とか別番組での特集も企画をお願いしたい。産科・小児科は、医師のリスクが大きくて担い手が少なくなる。総合病院からこの診療科がなくなりつつあるということは、報道などで目にしてきたが、地域医療が何故崩壊したのか？いつからこういう状況になったのか？疑問に思います。それは、高齢化が急速に進展している患者側の要因なのか？医療従事者の絶対数が不足しているのか？医療従事者は充足されていても過疎地に勤務する人が少なくなっているのか？などどこに要因があるのかももっと知りたいと思いますので、行政側の対応などを入れて、もっと掘り下げた特別番組を望みたいと思います。地域医療に携わる人材は、人の命を預かる使命感を持つ人だと思いました。今の状況ですと待遇面や厳しさは自主的に改まるこ

とはないと思いますので、5話に出てきた助産婦さんのように、使命感に燃えて医療に従事している人を、マスコミの使命としてこういうケースを紹介してもらって、人材の輩出につなげて貰いたいという感じがしました。シリーズの最初と最後が助産師だったのは、何か意図があったのか教えて欲しい。NICUは、昭和57年に創立されたということなので、未熟児で生まれて成人した方などを紹介しても良かったのではないかと感じました。

委員 現状を批判するのではなくて、医療の最前線で働く人を紹介することによって、視聴者に何か感じて欲しいという手法だと思います。それぞれの人が使命感を持って取り組む姿勢は、とてもすがすがしい感じがしましたが、逆に現場はこんなにさわやかなのか疑問も沸きました。一話6分位と短いのですが、充足率、リハビリの法律が変わった背景など、説明不足の感が否めないと思います。まとめのところで「250人の助産師がいるが、病院と連携しているのは数人」とありましたが、だからどうなのか？という一言が欲しかったと思います。将来この中の素材を基に、岩手の医療に一石を投じる番組を期待しております。

委員 地域医療の崩壊は既に始まっているのは事実で、東北、北海道、山陰は、非常に深刻な問題です。こうなることは20年前から既に予測されていたことで、一般や行政は、困らないと目を向けない。今年に入ってから、医師不足の問題はかなり取り上げられてきています。今回のように現場を丁寧に取材をして放送することは、非常に意義があることで、今後の県政、医療がどうなっていくかということに非常に大きな力になるのではないかと思います。先ほど「受診する側の意識」とはどういうことかとありましたが、遠野市が専属の部署を設けて医師不足の解消に乗り出した時に、医者への過重労働があまりにもひどいということにやっと気付いてくれた。それで、軽い症状の方は、昼間にちゃんと受診していただくように指導しています。そうしないと医師が夜眠れないため、日常の診療に支障がでます。それはどの病院でも言えることです。それから、最初と最後の助産師の話ですが、助産所が岩手に昔から根付いているものではなくて、産科不足が原因です。新医師で、産科の医師を人口割で考えると岩手は1人です。現場の産婦人科医は年を取っていく。何とか増やしていかなければいけない、県外に流出していくのを止めなければいけないというのが一つと、岩手は医学部を目指す受験者の割合が少ないという土壌もなんとか改善していかなければいけない。県内唯一の医大が私立大学のため、授業料も高額、奨学金をかなり考えていかなければならない。医師不足の中、助産師が結構いるということが話題になってきているが、分娩には立ち会えていない。県内で研修する場が少ない。助産所を個人で開業するのは、採算が合わないと言われていきますので、産科が不足している市町村は、行政がサポートしていかないと地元で出産は出来ないということになる。NICUは、医大が県内唯一の施設。久慈などの救急センターごとにあって然るべきだ

と思います。

委員 情報の整理の仕方が非常に配慮されていると思いました。それは、視聴者が自分がどのような状況に置かれていて、何を考えて、どうやっていったらいいのだろうと、自分を守るために考えていかなければならない。その素材を提供するという前提で番組を見ました。遠野病院の話では、市長や院長のインタビューはありましたが、利用者のインタビューがあればなお良かったと思います。

岩手医大のNICUは、患者さんは北東北3県に及び、高次医療の提供で評価が高い。しかし飽和状態にあることが問題である。医療の中心は救急医療なので、そこが整備されていないと住民は安心できない。しかしそこを安定的に持続させて状況を整えるのは、非常に難しいと思います。県内のそれぞれの地域の施設、従事者の状況はどうなっているのかを取り上げて、視聴者に考えてもらうという意図の基に番組を作っているのではないかと思います。病院機能のあり方について取り上げていってもらえるといいのではないかと。

ニュースの時間帯で放送していますが、他局も交えた視聴率を教えてください。

委員長 まとめますと

- ・ニュースの中の短い5回シリーズでしたが、医療の問題を取り上げたのは良い企画だったのではないかと。
- ・ニュースのコーナーだったので、時間が限られていたが、もう少し踏み込んだ説明が欲しかった。
- ・幅広いテーマにも関わらず、良くまとめていたが、5回のシリーズのうち3回が赤ちゃんに関するものだったのは、何か意図があったのか教えて欲しい。
- ・助産師の関係で、ベテラン助産師から最後は若手の助産師ということで、将来に希望が持てる展開になった。
- ・5回のシリーズなので、テーマの取り上げ方は偏らない方が良かったのではないかと。
- ・NICUは、興味深く見た方が多くて、どうして未熟児が増えている状況になって、何故それが続いているのかなど、もう少し掘り下げて欲しかった。
- ・医師不足の原因・これからどうしたらいいのかを、行政を含めた関係者の話をもう少し取り上げて貰ったら良かったのではないかと。これについて特別番組の制作をお願いしたい。
- ・250人の助産師がいる中、活動しているのは数人という背景をもう少し説明して貰いたかった。

社側 今回「いのち見つめて」とシリーズを企画したのは、医師不足の問題を何とか考えていけないか、それをどのように伝えていけばいいかと考えまして、現場で頑張っている皆さんを紹介して考えて行こうとスタートしました。5回シリーズの中で、助産師がお二人登場しましたが、産科医不足の問題は、都市部に集中して

いるということもありまして、地域で頑張っている助産師さんということでお一人。もう一人は、これから助産師として腕を磨いて岩手のために頑張りたいという前向きな人でありましたので、同じテーマではありましたが、今後に繋がる内容と考えまして最終回に構成いたしました。二人目の助産師さんは、とても意識が高い方でありまして、そういう頑張っている方が岩手県にもたくさんいらっしゃると思いますので、そういう方々の励みになるのではないかと思います。医療の問題は、非常に難しく、また私達の暮らしに関わる最も大事な問題であると思いますので、記者も取材を通じて勉強を重ねて、データ等も入れながら構成し、単に情緒的にならないよう注意しながら今後に繋げて行きたいと思います。視聴率は、おかげさまでこの時間帯は、トップをキープしています。

委員長 他に何かありますでしょうか。では、事務局にお返しします。

社 側 それでは、これで3月度番組審議会を終了させていただきます。